

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。

これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。

はじめは私が読んで、〇〇さんにはここ(68ページ2行目)から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・1ページ目(64ページ)冒頭の3行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。

少し読んでみて、決めましょう。
ここ(64ページの3行目)までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。

最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ⇨ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ⇨ [レベルDのテキストへ](#)

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。

これは『アニメーションとわたし』というお話です。「手塚治虫」という人を知っていますか。〇〇さんはマンガが好きですか。この人は「マンガの神様」と呼ばれている人です。このお話はその「マンガの神様」がマンガやアニメについて書いたものです。

- ④ 予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから65ページの2行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。

では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。

ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

- ⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから68ページの2行目まで実施者が声にだして読む。

ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：このテキストは、語彙もある程度増え、一定の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適している。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、注意深く観察し、途中でテキストを変えてもかまわない。また、最後まで読めたとしても、あらずし再生が難しい場合は、じっくり待って、はげましたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スモールステップのサポートを心がける。

また語彙や漢字は習得途上であっても、意欲的にこのテキストを選ぶ子どもがいるかもしれない(比較的滞日期間が浅いが、母語での読書力が身につけている子どもなど)。そのような場合は、わからない語彙や漢字について、子どもが質問しやすい雰囲気を作り、質問にはしっかり答えるようにする。

読みましょう...

① 音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから〇〇さんに読んでもらいます。〇〇さんは、声に出して読むのと、黙って(心の中で)読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話の内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して：68ページ3行目から69ページの5行目までを音読で、70ページ1行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、〇〇さんがどんなふうに進んでいるか知りたいので、ここ(68ページの3行目)からここ(69ページの5行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・69ページの5行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して：68ページ3行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(68ページの3行目)から最後まで声に出して読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① 要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解しているかをチェックする。

要約チェック

時間の流れとエピソード：筆者とアニメーション

- 1. 小学生の頃 ⇒ 動く漫画をノートに書いた
- 2. 初めてのアニメーション製作 ⇒ 百何十枚もの絵を撮影して、動画をつくった
- 3. 大人になってから ⇒ ディズニー作品などを覚えるほど見て、勉強
- 4. 本格的なアニメーション製作 ⇒ 「ある街角の物語」を6人の仲間をつくった
- 5. 日本で初めてのテレビ番組用アニメ「鉄腕アトム」の誕生

まとめ：アニメーションとは

- 6. 現実にはありえない世界を作り、夢をかきたててくれる
- 7. 見ることもだが、作ることがもっと楽しい
- 8. 苦しさを乗り越えて新しいものを作ったり、協力するという人生の大切なことを体験できる仕事

② 解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。この本を見ながら考えてもいいですよ。



アニメーションを作ることは大変なのに、どうして楽しいのでしょうか。このお話で作者が伝えたかったことは何だと思えますか。どうしてそう思えますか。

・その他の質問をしてもよい。

③ 意見：内容・要旨について意見を述べる。



このお話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。作者が伝えたかったことに対して〇〇さんはどう思えますか。どうしてそう思えますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。〇〇さんはとても上手に／頑張って〇〇できましたね。〇〇がよくわかっていますね。

② 読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続ける など)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵をみる、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
〇〇語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

③ 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書・図書館の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)
この1学期間(1年間、〇休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど)をよく読みますか。題名を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



〇〇語ではよく本を読みますか。
〇〇語でどんな本を読みますか(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)
一週間にどのくらい〇〇語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。